

2025 年 6 月 22 日（聖霊降臨後第 2 主日・特定 7、C 年）

牧師メッセージ

「疎まれていた人が証人に変えられた」

（ルカによる福音書 8:26-39）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音に登場する「悪霊につかれた人」は、墓場に住み、裸で叫び、鎖につながれていました。その姿は、悪霊の働きが人を孤独に迫いやり、他者との関係を断ち切る力であることを示しています。人々もまた彼を恐れ、遠ざけていました。

しかし、イエスはあえてその人のもとへ赴き、恐れず、軽んじることなく、彼と向き合い、言葉をかけ、解放へと導かれました。この姿に、イエスの深い憐れみと、断絶を越えて関わろうとする神の愛が現れています。イエスは、人を孤独や関係の断絶から解き放つ方です。これはまさに、イエス・キリストによる大いなる恵みです。

この出来事はまた、聖霊の働きにも目を向けさせます。聖霊は今も世界にあって、断絶された人と人の間に働き、孤独の中にいる人に慰めを、疎外された者に交わりをもたらそうとされています。癒しと解放、つながりを生む神の力が、今もなお生きて働いているのです。

癒された人は、イエスと共にいることを願いましたが、イエスは彼を遣わします。「神があなたにしてくださったことを語りなさい」。それは、「あなたにしか語れない福音がある」という信頼の言葉です。かつて疎まれた彼が、今や福音の証し人として、人と神とをつなぐ者とされたのです。

町の人々は、豚の群れの死や生活の動揺に恐れ、イエスを拒みました。その中で、癒された人が静かに自らの体験を語ることは、まさに神のなさった業を示す「生きた証し」となったのです。

私たちもまた、イエスとの出会いの中で経験した癒しや救いを通して、人と人、あるいは人と神との間に橋を架けるよう招かれています。それは、すべてが整ってから行うのではなく、自分の弱さや過去を含め、「今」の自分の歩みをもって語ることです。

証しの方法は様々にあると思いますが、その根底には、「イエスと出会ったこの私を見てください」ということがあります。その経験を証ししていくことこそが、現代において求められている宣教の一つのかたちではないでしょうか。

私たちもまた、解放された人のように、それぞれの場で証し人として立ち、神のなさったことを語り伝えていく者とされますように。聖霊の助けを求め、祈ります。